

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501107		
法人名	社会福祉法人 室蘭天照福祉会		
事業所名	グループホームフォレスト柏木		
所在地	〒050-0064 室蘭市柏木町45番10号 (電話) 0143-58-3200		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月8日	評価確定日	平成22年4月6日

【情報提供票より】(平成22年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 10月 7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 17人, 非常勤 1人, 常勤換算	17.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	10,000~15,000 円
敷金	有(45,000 円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月8日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.3 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新日鉄室蘭総合病院 下地内科外科 太平洋歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、閑静な住宅街に位置しているが、自然に恵まれた環境である。ホーム長を中心に、利用者と職員が共に過ごすことを実践している。また、よく来訪していた利用者の友人・知人の顔が最近見えない場合、連絡や訪問を行うなどの支援に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題である夜間入浴対応について、改善に取り組み、利用者の反応と効果の検証を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で課題を出し、話し合い、ユニットごとに取りまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回市内連絡会に合わせて開催し、地域代表として民生委員、家族代表、包括支援センター職員、事業所職員で構成している。会議の議題は、事業所の報告から除雪、災害時避難場所確保等、多岐に渡り、事業所の運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情対策委員会を設けており、重要事項説明書には、事業所内担当者名、公的申立機関を明記してある。職員は、家族の意見を重要なものとして、事業所の運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	母体法人が整備している隣接するパークゴルフ場は地域住民に開放しており、交流の場となっている。また、夏祭りなどの町内会行事に参加している。避難訓練について地域に参加の呼びかけを行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安らぎある環境の下、個性を大切に健康な力を支え、住み慣れた地域の中で、心和むサービス提供を行う」という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	額の中にだけ飾っていた理念を、大きな字で、目線の高さで事務所の壁に張り出すことを職員が提案し、朝礼時に理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、各種行事への参加や玄関前のベンチでの語らい、散策時の挨拶、事業所が飼っている犬に会いに来る子供達などを通じて、地域との交流を深めている。また、事業所の避難訓練にも地域住民が参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解しており、まず全員で自己評価を行い、一人ひとりから出た課題を、ユニット責任者が取りまとめている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。会議では、事業所からの報告や除雪、災害時避難場所の選定についての話し合いを行い、事業所の運営や利用者へのサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉関連の法律や介護保険の改正等で判断に迷うことは、その都度判断を仰ぐなど、市担当者との連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所広報誌である「森のたより」は偶数月、個人便りである「ほのぼの通信」は奇数月に、毎月の金銭管理報告と一緒に家族に送付し、事業所の様子や利用者の暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、家族の意見を大切にしており、意見箱の設置や管理者室の開放で、話しやすい環境を整え、家族来訪時の声かけに、熱心に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動による利用者への影響については理解しており、最小限に留める配慮をしている。また、担当者は固定せず、利用者はユニット間を自由に往来し、職員間で2ユニットの利用者の状況を共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、それぞれの能力に応じて職員を配置している。年4回開催している西胆振広域連絡会の研修には、各回2名以上の職員が参加し、報告を兼ねた所内研修を行っている。また、職員の段階に応じた、資格取得のための研修会参加計画を立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭グループホーム連絡会、西胆振グループホーム連絡会に所属し、意見交換会や交流会での情報交換に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族と一緒に昼食を摂りながら利用者の生活歴を聞くなど、無理強いはしないよう配慮し、必要なことを把握するよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬しており、歌や料理等を学ぶことがある。また、利用者目線と目線を合わせたコミュニケーションに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や家族からの情報を大切にし、会話の中から意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人のモニタリング、家族の意見、ケース会議、サービス担当者会議、ユニット会議の結果を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期、短期の介護目標による評価を定期的に行っている。また、利用者の急変時には、かかりつけ医や家族の意見をもとに、計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理、美容室への送迎支援等、家族の要望に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医による受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化への指針は職員全員が共有しており、協力医療機関との連携も図っており、希望に応じる用意ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った言葉かけをし、楽しい会話に努めている。また、写真の掲載等は同意を得ており、記録についてもプライバシーに配慮した取扱いを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目線を合わせて会話することで、利用者の意向を把握するよう努め、一人ひとりのペースで過ごせるよう努めている。職員が付き添ったユニット間の行き来も頻繁に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	大きいテーブルを囲んで、利用者と職員全員で食事しており、車いす利用者も、食卓椅子に腰かけて正しい姿勢で食事ができている。片付け等も個々の状態や能力に応じて一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回評価の改善課題である夜間帯入浴に組み込み、今後も希望により実施する体制を整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族への聞き取りにより得た情報を考慮し、得意分野の役割支援、歌や手仕事等の楽しみごとの支援を行い、利用者の意欲を引き出すよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期間は足元も悪く、散策は困難であるが、天候により外出支援をしている。気候の良い時は、広い敷地内に散策路も整備しているので、飼い犬との散歩等の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はセンサーで利用者の出入りを確認し対応している。夜間のみ、防犯上のため玄関に施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署立会いによる避難訓練には、地域住民も参加して実施している。また、スプリンクラーを設置している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、一人ひとりに合った量の食事を提供している。また、定期的に、法人内管理栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビング・ダイニングからは、隣接のパークゴルフ場や林が臨め、採光も程良く、ソファでくつろぎながら、四季を感じることができる。壁の飾りに季節感を採り入れており、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と家族に、使い慣れた物の持ち込みを依頼しており、飾りつけ等も個性ある設えとなっている。		

※  は、重点項目。